

看護大通信

62



新潟県立看護大学
老年看護学

助教 菅原峰子

高齢の方が入院したり手術を受けると、一時的に精神状態の混乱がみられることがあります。今の現在の状況がわからなくなり、中にはひどく興奮し、大声で叫んだり、点滴を抜こうとしたり、ベッドから降りようとすることもあります。この状態は、専門用語で「せん妄（せんもう）」と言われます。だいたいは短期間で症状が消失し、一晩だけということが多いのですが、症状により患者さん

高齢者が入院した時の混乱状態について

の安全が脅かされるため、なるべくせん妄が起らないように、そして、発症してしまつた時は早くもとに戻るよう支援する必要があります。

せん妄は高齢者だけに限つた症状ではありませんが、高齢者には特に

新しい環境に慣れることに時間がかかるため、発症しやすいと言われます。

せん妄予防や発症後の早期回復のために医療者は努力しているのですが、ご家族にもできることがあります。まず、入院後は面会の時間を多く持つとよいでしょう。ご家族がそばにすることで得ら

もあるかもしれません。しかし、基本的にせん妄は「一過性」であることを思い出し、落ち着きましよう。ご家族が動揺すると、患者さんにも不安になります。そして、患者さんが安心できるように接してみてください。その時に「ここがどこか」「今は何日か、何曜日か」「なぜ、ここにいるのか」など、現在の状況を考えていせるように関わるとよいでしょう。

こりやすいものです。加齢による心身の予備能力低下が病氣そのものの、薬、身体の痛み、病室という慣れない環境の影響を受けやすくしていると言われ、入院や手術に伴う心配事、不安の増強も関係します。認知症高齢者は、

れる安心感は、患者さんにとって何より大切です。また、普段の生活を感じ取れるよう、愛用品をそばに置くことも有効と言われています。もし、せん妄症状が出てしまった場合、ご家族は症状を目の当たりにして驚くこと

